

ずといへり、或は液雨を訓せり、十月雨也と注せり、古今集に秋の去滞れどよめり、万葉集に鐘禮と書るは、鐘を去くとよぶは、黄鐘のよみの如く古音なるべし、今の朝鮮音にも去くといへりとぞ、

〔物類稱呼一地〕液雨一云々、美濃加納にて山めぐりと云、丹鉛録曰張野盧盧山記云、天將雨則有白雲、或冠峯岩、或亘中領俗謂之山帶、不出三日必雨云々、又唐詩風吹山帶遙知雨なども作れり、又不時に村雨の降を、相州箱根山にてわたくし雨といふ、

〔萬葉集八秋雜歌〕市原王歌一首

待時トキマテ而落鐘アオナルシツレ禮能レノ雨令アメノ零收アツカ朝香山アサヤマ之將ウツロヒヌラム黃變

〔備字例附錄〕鍾禮

萬葉集に鍾禮シツレ能雨ノ云々、また鐘禮とも書り、鍾は韻鏡第三轉合音の字にて、漢音シヨウ、吳音シユウにて、鐘も同音也、今シグと轉し用るは、黄鍾をワウシキと呼例なり、ウ韻をク韻に轉じ用る例は、香山をカグヤマ、勇禮をイクレといふ類あまたあり、悉曇に、カキクケコを喉音とするによれるなるべし、略○中 太田氏云、鍾は漢轉音チヨク、如今、小盃ヲチヨクト喚做り、即鍾字也、コノ鍾ノ入聲燭ニ竹ノ吳ノ原音チヨクアルノ轉ナリ、又吳轉音シユク、萬葉集ニ鍾禮ヲシグレトアリ、又此轉ノウ韻ハ唐音撥假字ノ音ニテ、朝鮮ナドハクト呼ヤウニ聞ユトイヘリ、漳州ヲチヤクチウトイフ類ナリ云々、か、ればこの鍾字は吳音の入聲シユクを、直音になほしてシグと呼べるなり、竹の本音チユクを、チクと呼がごとし、

〔古今和歌集六冬〕題をらす

よみ人云らす

龍田川錦錦おりかく神無月神無月云々、れの雨をたてぬきにして

〔源氏物語九葵〕君はかくてのみもいかでかは、つくくとながめすぐし給はんとて院へまいり給